



やはぎっ子だより



令和4年12月22日
小田原市立矢作幼稚園
園長 山田 加居

早いもので、令和4年も残りわずかとなりました。今年はどうな1年でしたか？第2学期も残り1日となり、4か月の月日があっという間に感じられます。その間、『やはぎっ子げんきっ会パート3』・『パート4』と大きな活動を通して、子どもたちが成長したことを実感しています。一人一人はもちろんのこと、クラスの友達とのかかわりの深まりやまとまりを感じます。第2学期のクラスとしての成長を、第3学期につないでいきたいと考えています。保護者の皆様、第2学期間もご協力をいただき、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。楽しい年末年始をお過ごしください。

こんな子どもに！＝めざす子ども像 ＝教育目標

やさしい心をもって、周りの人や身近な動植物に関わる子
きはきと自分の考えや思いを表現する子
ぎもんや興味関心をもち、挑戦する子

『めざす子ども像＝教育目標』を達成するために、★重点目標★を目指し、
*具体的な取り組み*を実践してきました。
第2学期の姿を振り返り、第3学期につなげていきたいと考えています。

- ★遊びや活動に主体的に取り組む★
- ★遊びの中で試行錯誤する★
- ★身近な動植物との関わりの中で、命の大切さを知る★
- *『全体的な計画』を活用した保育の実践*
- *全職員で見取りを共有し、環境と援助を探る*

自分がやりたい遊びを深めていくとともに、クラスの友達と力を合わせて取り組む遊びや活動が多くなった第2学期でした。「運動会ごっこ」を繰り返す中で、自分の姿と友達の姿の違いや同じところに気付き、そこから相手の思いを汲み取ったり、共感したりする姿が見られました。『全体的な計画』を元に、季節を逃さず、いろいろな角度からみた系統立った矢作幼稚園ならではの保育を大切にしながらも、目の前の子どもたちの姿を一番に考えながら保育を進めてきました。



日頃から楽しんでいた遊びが競技につながり、『やはぎっ子げんきっ会パート2（運動会）』では、親子で体を動かすことのできる気持ちよさを味わうことができました。年長児は、係の仕事にも責任をもって取り組んでいました。



年少児は、ハロウィンごっこも楽しみました。「ハロウィンファッションショー」と称し、年長児も招待し、ランウェイを楽しみました。それがきっかけとなり、生活発表会へとつながっていきました。



製作コーナーでは、遊びに必要なものをつくる子どもの姿が必ずあります。レストランごっこの食べ物をつかったり、クリスマスが近づく、クリスマスリースをつかったり、廃品を使ってヒーローの武器をつかったり…。年少・年長互いの刺激になっています。



鬼ごっこのルールを確認しながら、丁寧に進めています。年少児も加わって、一緒に楽しめるよう働き掛けてきました。共通のルールを意識しながら、遊びを進めていくことの面白さを感じています。



落ちていた花びらを使って、色水遊び。準備も片付けも自分たちで…。

一つ一つ道具をつなぎ合わせての構成遊び。みんなのイメージもつながっていきます。



残念ながら死んでしまった魚もいました。お墓をつくって埋めてあげました。

年長の姿に興味をもって、徐々に集まってきました。年少児も「魚が欲しい。」と言い出し、園で飼うことになりました。それに必要な道具を年長児がホームセンターまで、買いに行ってくれました。



★地域の人との関わりを大切にする★
★家の人やボランティアとの関わりを深め、感謝の気持ちをもつ★
★あいさつを進んでする★
『やはぎはあと』の実践
つながりや感謝の気持ちを感じられるように、人との関わりを目で見えるようにする
あいさつ当番の再開

コロナ禍の生活の中で、制約はありますが、子どもの成長を一番に考え、必要と思うものは、できる方法を考え、園外へ出掛けたり、関わりをもったりしてきました。子どもたちの中で、少しずつ積み重なってきていることを感じます。



幼年消防クラブ員として、消防自動車のお絵かき会に参加したり、火災予防運動の啓発のお手伝いをしたりしました。消防署の人との関わりを通して、関心の深まりもみられました。

3年ぶりのキラピカさんとのクリスマスリースづくりとなりました。サツマイモのツルの長さに驚きつつ、リースが作れることにも驚きつつ、キラピカさんとの関わりを楽しんでいました。



年長児は、園を代表して、もち米や魚のための水草やえさを買いに行ってくれました。近くのスーパーからは、思わぬプレゼントをもらい大喜び！お礼のカードを届けに行きました。お店の方にも喜んでいただき、笑顔で帰ってきました。



年少児は、近くの矢作公園や成田公園に行ったり、ハロウィン散歩では、素敵な出会いも…。お礼のメッセージカードを届けに行くと、とても喜んでいただき、「宝物にするよ！」と。子どもたちには、心に残る言葉となったようです。



★言葉を使って伝え合う★

★“気持ち”を言葉で表現する★

- *話を聞いたり、したりする場の環境を整える*
- *いろいろな言葉に触れる機会を大切にする*
- *絵本の読み聞かせや図書貸出により、絵本への興味を広げる*

クラス全員で一つの活動に取り組むことが多かった第2学期は、子ども同士、話し合う機会が多くなりました。自分の思いを言える子もいれば、言葉にしようとすると考えてしまう子も…。それを見守りながら、言葉を添えてあげたり、聞くことの大切さを伝えながら、話し易い雰囲気をつくったりしながら、進めてきました。



「サフランの花が咲かないのは、なぜ？」から始まった年少児の話し合い。「持って帰りたい。」「幼稚園に植える。」などの意見が出る中、自分のサフランは持ち帰り、園用のサフランは畑に植えることにしました。

鬼ごっこの最中にトラブル発生。気持ちを落ち着かせるために、場を離れ、気持ちに寄り添う担任。それを遠目に見ていた仲間が近くに集まってきて、遊びについていた教師が、互いの思いを言葉に変える手伝いをしながら、解決の糸口を見つけ出し、遊びが再開しました。



子どもたちの言葉の元になっていくのが、自分の耳から聞いた言葉です。日常の会話だけでなく、テレビや絵本などから、たくさんの言葉を吸収していきます。たくさんの言葉と出会う機会を大切にしていってお手伝いもしてくれている絵本屋さん。第2学期もたくさんの絵本・言葉と出会う機会をいただきました。

★基本的な生活習慣を身に付ける★

- *自分のことを自分のこととして受け止められるようにし、最後まで自分でできるように見守る*
- *家庭との連携を図る*
- *子育てアンケートの実施*

自分のロッカーや引き出しであることへの意識をもち、日頃からきれいに整えることができるよう週末に整理整頓をしたり、片付けに丁寧に沿ったりしています。子育てアンケートでも、各家庭で、おもちゃの片付け方の工夫がされていたりし、「自分のことは自分でする」ことが少しずつ定着しています。



ロッカーをきれいに整えています。毎週やることで、日頃からも意識もてる子が増えてきました。

年長児と年少児が協力して片づける姿も見られます。



遊具の大そうじ。遊具庫から運び出し、水拭きをしたり、靴箱のすのこもきれいに拭いてくれました。新しい年を迎える準備をしました。



11月から始まった『たべもの研究会』。「たべもの博士」の登壇に、子どもたちの気分は、研究員。バナナウンチや栄養素の話などを聞きながら、食べ物の大切さや自分の体に必要なものであることを学んでいます。小学校の給食に向けて、期待が膨らむよう「たべもの博士」も頑張ってくれています。研究会後に博士からもらえるスタンプも楽しみの一つになっています。